

山口大学医学部&附属病院から笑顔と情報を発信!

山/大/医/学/部

Yamaguchi University Faculty of Medicine and Health Sciences / Yamaguchi University Hospital

病/院/だ/よ/り

6

2023

Vol.260



今年の看護部は「患者さんの尊厳と権利を尊重する」ことに、力を入れて取り組みます!



副病院長あいさつ

総務、経営・企画、教育、研究を担当します副病院長の木村和博です。最先端かつ最良の医療を患者さんに提供する責務を担って参ります。さらに、世界に通ずる良医、優れた研究者を育成し、医療の充実、発展へと結びつくりよう取り組んで参ります。これらの実践により、皆様を健康に努めるべく全力を尽くします。よろしくお願いたします。



副病院長
総務、経営、企画、教育、研究担当
山口大学大学院 医学系研究科
眼科学講座 教授

木村和博

医療の質・安全を担当します副病院長の坂井孝司です。本院における安全な医療を運用していくため、患者さんの安全確保に向けた事故防止・予防、および医療安全上の課題に対する種々の対応・環境づくりに努めて参ります。まずは医療者側と患者さん・ご家族との良好な信頼関係を構築することが肝要で、そのうえで医療者による適切な診療が行われる環境が構築できるように、事務部とも協力して参ります。



副病院長
医療の質・安全担当
山口大学大学院 医学系研究科
整形外科学講座 教授

坂井孝司

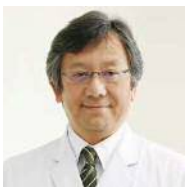
DX推進、個人情報管理、防災を担当します副病院長の鶴田良介（先進救急医療センター長）です。デジタル・トランスフォーメーション（DX）とは、単にデジタル技術を活用するにとどまらず、その技術が浸透することで、生活がより良い方向へ変化する意味を含んでいます。患者さんや職員のために、①より良い医療を提供するため、②医師の働き方改革のため、③自然災害などのBCP（事業継続）対策のため個人情報を守りながらDXをチーム一丸となって推進して参ります。



副病院長
DX推進、個人情報管理、防災担当
山口大学大学院 医学系研究科
救急・総合診療学講座 教授

鶴田良介

人事・労務D&Iダイバーシティ・インクルージョン推進を担当します副病院長の中川伸です。真摯さと寛容さを大切にしていきたいと思えます。病院に集う皆さまが、気持ちよく、快適に頑張れる素敵な病院になるように様々な環境作りに取り組んでいきたいと思えます。よろしくお願いたします。



副病院長
人事・労務D&I推進担当
山口大学大学院 医学系研究科
高次脳機能病態学講座 教授

中川伸

診療、医療連携、広報を担当します副病院長の長谷川俊史です。県内唯一の特定機能病院である本院においては、患者さんがこれまで以上に安心して高度先進医療が受けられるように努め、他の医療機関との連携強化により、良い医療が継続的に提供できますよう努めてまいります。また広報として、本院で働くと考えておられる皆様、本院を受診される皆様、本院の魅力をわかりやすく紹介していきたいと思えます。どうぞよろしくお願申し上げます。



副病院長
診療、広報、医療連携担当
山口大学大学院 医学系研究科
小児科学講座 教授

長谷川俊史

看護および患者サービスの担当します副病院長の原田美佐です。患者さんお一人おひとりの尊厳と権利が尊重されるように、組織運営や職員における人材育成を行っていきたくと思えます。いつも「主語は患者さん」を念頭に置きながら、いかなる場面においても患者さんの擁護に努めて参りたいと思えます。



副病院長
看護、患者サービス担当
看護部 部長

原田美佐

安心・安全でより良い医療を提供し続けること

病院長あいさつ

山口大学医学部附属病院長
病院長

松永和人



令和5年4月1日付けで山口大学医学部附属病院長を拝命しました松永和人（まつなが ひろと）です。広報誌をご覧いただいている皆さまに謹んでご挨拶申し上げます。

本院は、山口県の中核病院として発展してきた歴史と伝統を持ち、これまで国内外で活躍する多くの人材を輩出し、医学・医療の発展と医療人の育成に尽力し参りました。

大学病院には診療、教育、研究の3つの使命があります。これらの使命を達成するために、「一人ひとりの健康と安心の探求と実現」を理念とし、①患者さんに寄り添い、安全で良質な医療を提供する、②個性や価値観を尊重し、安心して能力を発揮できる職場環境を創る、③豊かな人間性を持ち、多様な場で活躍できる医療人を育成する、④世界に誇れる先端医療を探索しつづける、⑤持続可能な地域医療の実現に貢献する、を基本方針としています。

本院は、現在、ベッド数756床、30の診療科と24の診療部門を擁し、あらゆる分野の疾患を専門的かつ総合的に診療できる「山口県内唯一の特定機能病院」です。国立大学病院で最初に設置認可された「高度救命救急センター」を中

核に、山口県の高度救命医療体制を担うとともに、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、アレルギー疾患医療拠点病院、災害拠点病院等、山口県の拠点病院に指定されています。2018年には、AIシステム医学・医療研究教育センターを設置し、多くの診療科との共同研究の成果として、AI技術を活用した診療支援が始まろうとしています。

また、新たな挑戦として、さまざまな分野のプロフェッショナルが連携しながら総合的な治療やケアを提供するセンター化を進め、診療機能の強化に取り組んでいます。現在、アレルギーセンター、生殖医療センター、血管内治療・放射線診断治療センター、こども医療センター、低侵襲手術センター、炎症性腸疾患センター、高齢者がん治療センターが分野連携型の診療を開始しました。大学病院は、将来を見据え、優れた医療人材をバランス良く育成していくことで人々の生活と繋がりを守り、安心して暮らせる社会の実現を目指していく使命があります。山大病院は、今後の社会の変化に柔軟に対応しながら、より良い医療を目指す挑戦を続けて参ります。

2020年から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症ですが、幸いなことに、本院では、これまで日常診療に大きな影響を与えるような院内感染は発生しておりません。これは十分の患者さんや職員が協力しなすべからず、感染対策に取り組んできた賜物です。この3年間、本当に多くの方々から温かいお言葉や激励をいただきました。改めて心より感謝申し上げます。

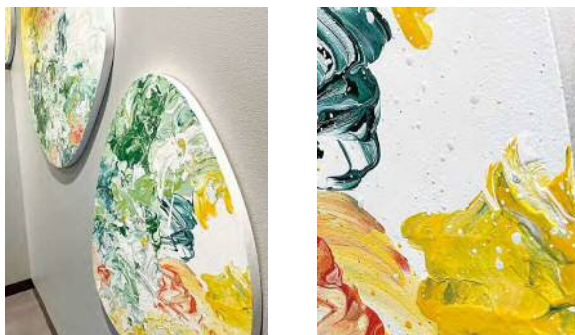
また、本院では、2015年から国立大学病院としては初となる2回目の病院再開整備事業を進めています。2019年には新棟が開院し、診療体制がさらに充実しました。2025年度までの再開発事業による病院機能の強化は、今後も持続的かつ強靱な体制で高度先進医療を提供する礎となります。日常診療を行いながら再開整備を進めており、もうしばらくご不便をおかけすること存じますが、どうぞご理解とご協力のほどお願申し上げます。

山大病院の使命は、山口県の医療における「最後の砦」を育む、地域医療の「安心」と「未来」を誓むことです。その実現のためには、「安心・安全でより良い医療を提供し続けること」が最も大切です。山大病院が未来に向けて歩んでいくためには、医療側の視点だけでなく、皆様からの率直なご意見が必要で、今後とも温かいご支援をお願い申し上げます。

新たにホスピタルアートを 設置しました



「夏みかんの花」をモチーフにした抽象的な作品です。



ハンドペインティングによるダイナミックな表現が特徴です。

C棟2階



C棟（新中央診療棟）の改修工事が終了し、ホスピタルアート2作品を新たに設置しました。365日変化し続けるデジタルアートと、夏みかんの木をモチーフにした壁画作品です。ぜひご覧ください。

C棟2階 廊下L字壁
作品名：ナツミカンの木

C棟2階と病棟との連結部分には、木下友梨香さんの壁画作品が設置されました。

山口県の県の花である「夏みかんの花」をモチーフとして、丸みのある変形パネルへ、ダイナミックにハンドペインティングで描かれた作品です。夏みかんの花びら、花のつぼみ、果実や葉の色彩とイメージから豊かに育つ未来のエネルギー、成長、再生を表現しています。廊下を行き交う人々が足を止めたくなる、楽しく印象に残る空間を作り出しています。



Artist
木下 友梨香 KINOSHITA Yurika



【略歴】佐賀県出身。京都造形芸術大学を経て武蔵野美術大学を卒業。花農家で育った生い立ちを元に、花や植物を抽象表現した作品を制作している。密集して存在する花や植物を描き、自然を目にした時のような瞑想を生活の中に提示する。塗料を使い手で描き、ダイナミックで動きのある表現を行う。
【主な展覧会】2023年：「しろいし線の芸術祭」[佐賀] / 2022年：個展「SKETCH」[東京/MARGIN]、グループ展「新都」[京都/ギャラリーためなが] / 2017年：個展「やっばり嬉しい」[東京/MAKII MASARU FINE ARTS]

C棟1階 クロスラウンジ柱周り
作品名：デイリー・コース [365++]

1階麻酔科外来近くには外来診療棟とB棟を結ぶ「クロスラウンジ」が新たに整備され、その中心に位置する柱にデジタルアートを設置しました。

山口県出身のアーティスト石井栄一さんの作品で、「再生・光・エネルギー・成長」をテーマにした365日毎日変わるグラフィックにより構成されています。「ジェネラティブ・アート（生成の芸術）」と呼ばれる、コンピューター特有の表現方法で、パターンの異なる365日分のプログラミングをコンピューターが計算、実行した結果がディスプレイ上に描かれています。（本作制作協力：山口情報芸術センター[YCAM]）



Artist, Creative Corder
石井 栄一 ISHII Eiichi



【略歴】1994年山口県生まれ。山口大学教育学部卒業。幼少期から、電子音楽や、機械・コンピュータに興味を持ち、中学生ごろから電子楽器の制作を始め、即興演奏によるパフォーマンスを行った。その後、デジタルアート作品の制作を始める。主にプログラミングを表現の軸とし、グラフィック作品や映像、楽曲、インスタレーションなどを制作。大学在学時から学生グループ展や展覧会に参加。近年では「デイリーコーディング」と呼ばれる、ほぼ毎日プログラム・コードを書く活動を行い、SNSなどで定期的に作品を発表し続けている。



毎月4日には、山口県の観光名所をモチーフにしたアートが現れます。

C棟1階



T 病態検査学講座 富永助教が最優秀賞を受賞しました 山口県主催「第3回 Yamaguchi Pitch Day in 松下村塾」

山口県では、ロールモデル（目標）となるスタートアップ企業を創出するための育成プログラム「やまぐちミライベンチャー創出事業」を実施しています。このたび、その成果発表イベント「第3回 Yamaguchi Pitch Day in 松下村塾」が、令和5年3月4日（土）に萩市の松下村塾にて実施され、大学院医学系研究科保健学専攻病態検査学講座富永直臣助教が最優秀賞を受賞しました。

富永助教はヒト細胞を用いた血液脳関門モデルの事業化を進めており、血液脳関門モデルの販売や独自の解析サービス、日本発の神経変性疾患治療薬の開発促進について発表し、最優秀賞を受賞しました。

本イベントは、山口県において顕在化しているベンチャーファイナンスに関するニーズを満たし、且つ大手企業等との事業連携機会を創出することにより、山口県から全国、



世界へと羽ばたく起業家を輩出することを目的としています。また、山口県下におけるスタートアップでの起業を目指す機運の醸成を図り、スタートアップエコシステムの構築を目指しています。

くわしくは、やまぐちミライベンチャーHPへ。



T 京都のボランティア団体「スマイル京都」より 手作り帽の寄附がありました

抗がん剤治療中の方にケア帽子を贈る活動を行っている京都のボランティア団体「スマイル京都」より、手作り帽の寄附がありました。スマイル京都による寄附は2021年から続いており、今回で6回目です。帽子は子どもから大人用まであり、季節や用途に応じて外出の際にかぶれる様々なタイプのものが多数届きました。

本院は、山口県がん診療連携拠点病院に認定されており、外来棟1階には「がん相談支援センター」を設置しています。センターでは、看護師や医療ソーシャルワーカーが、がん患者さんやご家族からの相談受付やがん診療に関する情報提供等を行っています。

寄贈された帽子は、センターにおいて治療による脱毛にお困



りの方に提供しています。患者さんからは、「この手作りのケア帽子はとても心がこもっていて、かぶると何ともいえない温かい気持ちになります。すごく気に入りました」等の喜びの声が届いています。

Greeting

新任のごあいさつ



山口大学大学院 医学系研究科 ゲノム・機能分子解析学講座 教授

坂本 啓

この度令和5年4月1日付で山口大学大学院医学系研究科ゲノム・機能分子解析学講座（微生物学講座）の教授を拝命致しました坂本啓（さかもと けい）と申します。

私は札幌市の生まれで札幌南高校を卒業し、東京大学医学部で学びました。平成14年に卒業し消化器病専門医を取得しております。大学院では炎症性シグナルについての基礎研究を行い、学位を取得しました。学位取得後も朝日生命成人病研究所で基礎研究を継続し、米国の細菌研究の拠点であるミシガン大学に留学致しました。5年半程度の留学中、病原体と常在細菌叢の攻防、病原体の宿主内での生存戦略等について研究を行いました。留学中の御縁から感染症研究拠点である長崎大学へ赴任する機会を頂き、細菌感染と生体反応に関する基礎研究を深めて参りました。また、長崎赴任中には新興感染症の検査・診療体制の構築に携わるとい

う貴重な経験を積むことができました。微生物学は医学領域において近年大まかに二つの面をもつようになってきたと感じています。一つは感染症学の土台という伝統的な面です。感染症は21世紀も人類を脅かし続けております。ウイルスはもちろん、前世紀には抗菌薬で制御できると楽観視されていた細菌も、多剤耐性化と相まって更に大きな脅威となりました。微生物学は人類の生存に関わる戦略を提供する基盤となります。もう一つは生物や生態系を支えるシステムを理解する土台です。生物や生態系には微生物叢が存在します。それは単純に生物が混在した状態ではなく、明らかに機能を持った存在として解釈されるようになってきました。共生微生物は健康状態や疾患の治療成績等までも左右し、更に他の生物や土壌・水系にある微生物叢も人類の生活に深く関わることも分かってきました。この分野は必ずしも臨床分野や日常生活への応用が進んでくるでしょう。微生物学はそのような新技術を創り、使いこなすための基盤となります。私は山口大学を拠点として微生物学を展開し、より良い新時代を築く助けとなることが出来るよう尽力致します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

T ご出産のお祝いをお渡ししています

本院ではご出産されたお母さんが退院する時に、ささやかではありますが、お祝いの品をお贈りしています。

お祝いの品は、山口大学教育学部出身のデザイナーであり、A棟のホスピタルアート製作を担当した渡邊良重さんの絵本「うたをうたうとき」と書下ろしメッセージカードです。絵本には、A棟のホスピタルアートの数々が収録されており、周南市出身の国民的な詩人、まど・みちおさんの詩の世界観がモチーフになっています。

絵本を受け取られたお母さんからは、「子供と一緒に見たい」、「アートがじっくり見れて嬉しい」などの喜びの声を頂いています。



「うたをうたうとき」
詩/まど・みちお 絵/渡邊良重
A棟1階ロビーでも発売中です

山口県の子どもたちにより良い未来を

県内初 「こども医療センター」を設置



このたび、山口大学医学部附属病院に山口県内初の「こども医療センター」を設置しました。

本院は、あらゆる分野の疾患を専門的かつ総合的に診療できる、県内唯一の特定機能病院に指定されています。新たに設置された「こども医療センター」は、小児科だけでなく専門分野が異なる医師や専門スタッフがチームとなって治療を行います。また、新生児・乳児期から学童期を超えて継続的に、一人ひとりに応じたきめ細やかな診療を行っています。それぞれの専門分野の研修を修了した医師が、難治性疾患の診断・治療も積極的に行います。

こども医療センターでは、小児科、総合周産期母子医療センターのほか、外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、整形外科、歯科口腔外科など幅広い診療科が連携してお子さんの診療にあたります。また、『どの病院にかかったらよいか分からない』、『継続的に診察してほしい』などの、さまざまな要望に対応が可能です。

当センターでの診療をご希望の場合、あらかじめ、かかりつけ医にご相談いただき、かかりつけ医による予約取得の上、紹介状をお持ちになってご来院ください。



くわしくは
こども医療センターHPへ



公式Facebookページで
山大病院の情報を配信中!!



企画発行 山口大学医学部広報委員会 / 山口大学医学部総務課広報・国際係
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号 TEL 0836-22-2111
医学部 <https://www.yamaguchi-u.ac.jp/med/>
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>